

S S T L

NO. 70 2020. 11. 18

職場参加ニュース



障害者の職場参加・地域参加で拓く一地域共生社会 共に働く街を創るつどい2020

日時:2020年12月6日(日) 13:00-15:50 (12:30開場)

場所:越谷市中央市民会館5階 第4、5、6会議室

〒343-0813 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目1番1号 048-966-6622

資料代:会員500円、非会員700円

第一部:特別報告

施設からの地域移行に始まり三多摩・山梨つなぐSDGsの帯へ

伊藤勲さん(一社ソーシャルファーム・ミレットロード代表理事、
NPOやまぼうし理事長)

第二部:パネルディスカッション

障害者の職場参加・地域参加で拓く一地域共生社会

パネリスト

伊藤勲さん(一社ソーシャルファーム・ミレットロード代表理事、
NPOやまぼうし理事長)

尾谷英一さん(㈱ニューオタニ社長、当法人理事)

須長こうさん(ワーカーズコレクティブ・キッチンとまと代表)

大野宮弥さん(就労移行支援「世一緒」利用者)

コメンテーター

西岡宏城さん(越谷市福祉推進課調整幹)

秋山和之さん(越谷市産業支援課副課長)

斉藤秀樹さん(越谷市障害福祉課調整幹)

コーディネーター

朝日雅也さん(埼玉県立大学社会福祉子ども学科教員)

手話通訳有

主催: NPO 法人障害者の職場参加をすすめる会

(代表理事・山崎泰子)

後援: 越谷市 春日部市

連絡先: 職場参加ビューロー世一緒

〒343-0023 埼玉県越谷市東越谷1-1-7 須賀ビル101

048-964-1819 (FAX 共 7回コール要) shokuba@deluxe.ocn.ne.jp

①

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

皆様へ ※今回の「共に働く街を創るつどい」では、6月に行った「総会記念シンポジウム」に引き続きYOUTUBE動画配信を予定しております。「希望の方は、前日までに yamashi.ta38k@roiheyadocomo.ne.jp までメールで、氏名・所属等を明記してご連絡ください。URLはシンポジウム当日にお知らせいたします。ただし、まだ試行段階のため、うまくいかない場合はご容赦を。
*生活クラブ生協越谷ブロック版「よいいどん!市民事業寄付制度」に今年も応募させていただきました。既に一七〇回をこえた世一緒での「すいご」カフェ(7、8ページ参照)の年誌作成費です。組合員の方々、ぜひご協力ください。



障害者の職場参加・地域参加で拓く地域共生社会

共に働く街を創るつどい2020開催にあたって

毎年の障害者週間前後に開催している「共に働く街を創るつどい」も、第1回の「準備のつどい」を含めると22回目になります。

私たちの創りたい「共に働く街」とは、福祉や医療の対象者とされている人々も含めて、さまざまな形で、地域の他の人々と役割を分け合って生きる街という意味です。「さまざまな形で共に働くこと」を、私たちは「職場参加」と呼んでいます。だから、職場参加は「障害者の雇用・就労支援」にとどまらず、障害のない人たちの働き方、事業所・産業のありかた、地域・自治体のありかたをひっくるめた営みといえます。

国の「地域共生社会」とは 分け隔てられてきた43年との対比の下で

社会福祉法が改正され2018年4月から施行され、「地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進」が謳われています。国の通知では、このために市町村地域福祉計画に盛り込むべき事項のトップに、「様々な課題を抱える者の就労や活躍の場の確保等を目的とした様々な分野(まちおこし、商工、農林水産、土木、防犯・防災、社会教育、環境、交通、都市計画等)との連携に関する事項」を掲げています。ちなみに地域福祉計画は、法改正により、高齢者、障害者、子ども・子育て等の分野別福祉計画の「上位計画」として位置付けられました。「共に働く街」を地域福祉の重要な取組として国が位置付けたとあってよいでしょう。

とはいえ、43年前の養護学校義務化前後から、国は将来の労働力である子どもたちを能力・適性・障害の有無によって分け隔てて教育する方針を進めてきました。そしていま子どもの数が減っているのに、特別支援教育の場に分けられる子どもの数は急増しています。そこで手厚い職業教育や専門教育を行っているにも関わらず、新規卒業生全体の中の就職者数は43年前の数に到らず、福祉施設利用者は膨れ上がる一方です。共に働き・暮らす街のためには、やはり幼いころから共に学び育つ街でなければならないのです。

共に働く地域の存在を大切に これからの「地域福祉」をどう進めるか

また、43年前から現在に至るまで、国は何度も障害者雇用促進法を改正し、初めは身体障害だけに適用した雇用義務を、知的障害、精神障害まで広げ、短時間雇用も認め、法定雇用率をアップしてきました。しかし、社会全体を見ると、雇用義務の対象からははずれている25人未満の企業が、現在でも障害者雇用を下支えしていることが明らかになっています。幼いころから分けられてきた同士が大人になって出会っても、互いにどうつきあってよいか戸惑うのは当然ですが、それでも同じ街で生きることによって、壁を少しずつ崩してゆけることを示しています。

「福祉」というと、住まいや介護、居場所、日中活動などがまず浮かび、国が予算化した「新しいつながり事業」もそこにシフトしていますが、保育所・学校、そして職場・産業という地域の基本構造を含めて、「地域福祉」を創ることによって、狭義の福祉活動も文字通り多世代の共生活動として活性化しうるのではないのでしょうか。

この課題を考えてゆく上で、今回は、一般社団法人(以下、一社と略)ソーシャルファーム・ミレットロードによる都のソーシャルファームへのエントリー、日野市のプラスチック・リサイクル事業への参画、大学での多世代カフェ等の取組を学びます。また、障害者と共に働き、街を元気にする町工場、NPOへの職場参加ほかの報告を受けながら、みんなで考え合いたいと思います。



伊藤 勲さん

かつて府中療育センター移転反対を求める都庁前テント闘争があり、その結果作られた施設・日野療護園の入所者が、

地域に出て24時間の介助体制を確保して暮らすための拠点として、自然食の店「おちかわ屋」開設に関わった(1985年)。

2001年にNPO法人やまぼうし設立以降、障害者の地域での多様な暮らしの場と働く場づくりを展開。里山保全の団体や開発に抗う酪農家と出会い、有機野菜を育て、廃校の給食調理室を利用して配食やレストランを開き、大学や公園のレストラン等の運営もひきうけてきた。市障害者生活・就労支援事業「くらしごと」も担う。

今年の「つどい」で話していただくのは、新たに設立された一般社団法人ミレットロード。日野市のプラスチック類資源化施設、都立多摩スポーツセンター内カフェ、アフタースクールカフェ、多世代交流サロン等をやまぼうしから事業継承し、都のソーシャルファームとしての認証、助成を予定。それをステップとして、日野にも近い「都会にもっとも近い限界集落」の上野原市西原の雑穀栽培と三多摩をつなぎ、市民・企業・行政・大学のパートナーシップで、住み続けられるSDGsのまちづくりをすすめる。



尾谷 英一さん

知的障害者と長年働き、勉強やスポーツも共にし、町会のまつりや川の清掃などに欠かせない役割を担う町工場の経営者。障害者に特化した制度は使いづらいのが多

く、一般の産業支援の制度の中に意外と役に立つものがあると語る。週末のスポーツ等は、直接雇用している障害者以外にも多くの障害者たちの社会参加のきっかけとなっており、地域の活性化も生む、社会資源としての町工場だ。



須長 こうさん

30年前、生活クラブの役員をやり石鹼運動や食の勉強をした。仕事をしたいと思ったが食品添加物いっぱいの物を売るようなパート

の仕事に抵抗があり、コミュニティビジネスとしてワーカーズコレクティブでお弁当屋を開業。出資者は20人、600万円でスタート。15年後、家賃が払えず1年休業。その後、産業支援課から空き店舗対策で声がかかり、今日の出商店街で再開した。現在時給400円、でも持ち出しはなくやれている。

「身土不二」。自分の住んでいる所を大事にしていくことを基本に、仕事を続けたい。越谷市の農家を訪ねる活動をして農業がなくならないようにと願っている。夢は、そんな農家の奥に、1階は仕事場、2階に居室の共同住宅を作り、皆で助け合って100歳まで現役でいること。

その思いの延長に、障害のある人の職場実習やアルバイトも受け入れている。

つどいパネリストご紹介

大野 言弥さん

昨年特別支援学校高等部を卒業し、就労移行支援事業「世一緒」の利用者となる。電話が大好きで、電話番号の仕事があればやりたいと、ニュース



「世一緒NOW」で発信していた。早起きは得意ではないが、キッチンとまとの弁当注文の電話を受ける日は、がんばって出て行く。

埼玉障害者市民ネットワーク主催



総合県交渉に参加して

8月27日(木)、28日(金)、埼玉障害者市民ネットワーク(野島久美子代表)主催の総合県交渉に参加した。

県内各地から、「障害があってもなくても地域で共に学び、働き、暮らして行こう」と活動する団体・個人が集まった。

この「交渉」がユニークなのは、単に要望を連ねて議論するのではなく、その要望がなぜ出てくるのか、具体的な資料や寸劇によるプレゼンで、くらしの実態を県の担当者に伝えることに、十分な時間をさいていること。



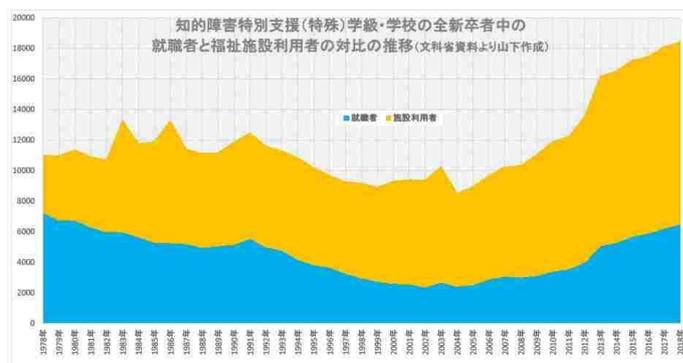
なぜそこに力を入れるかといえば、いまの役所は、昔と比べると、はるかに多くの事業をしており、しかも民間に委託していることが多くなっているため、地域の実情について具体的なイメージをもちにくい。

この総合県交渉が始まったのは1987年だが、その当時は重度障害者は「施設か家の奥か」で生きるしかなく、

軽度障害者はあからさまな差別の中で使い捨てられ、早死にするといった状況があった。そのように制度的保障がない中で始められたこの総合県交渉は、しばしば激しいやりとりになり、その中から地域で生きるための制度も少しずつできていった。

ところが、90年代の不況、リストラの時代を境に、さまざまな福祉制度ができ、しかもその制度に民間企業が参加できるよう市場化したことにより、障害者や高齢者、困窮者、子ども等が、障害の状況や要介護度、所得や家族状況等により、細かく分け隔てられる流れが強まった。

と同時に、本来はこうした差別分断が生じないように市場を調整管理する位置にある役所は、地域の実情がわかりにくくなった。国と県、県と市町村の間の情報共有も、「地方分権」の名目の下に、昔より難しくなっている。



上のグラフは特別支援学級、特別支援学校を合わせた新卒業生のうち、就職した者の数(青)と福祉施設利用者になった者の数(黄)の推移。ここ10数年、高等特別支

援学校職業コースが全国に多数出来、そこで落とされた生徒が県立高校に入ったとよく言われるほどの過熱状態なのに、トータルでは40数年前の就職者の数にまだ達せず、福祉対象者ばかりが増えている。

総合県交渉では、こうしたマクロなデータも示しながら、文科省や厚労省のデータを鵜呑みにせず、県独自の施策を考えよと呼びかけた。



上の写真は、さまざまな障害を持つ世一歳のメンバーとかっぱの非常勤職員で車いすの新相さんが、県職員たちに向かってそれぞれの仕事と生活を語ったようす。その組み合わせがワンパターンでないことをわかってほしい。

かつての働く障害者達は、他人に世話にならずに生きていくことを支えに、いじめに耐え、命を削って生きた。そういう生き方だけではなく、生活保護や年金や介助を得て地域で暮らしをつくりながら、その暮らしをひろげるべくさまざまな職場に参加して共に働くことにチャレンジしながら

1994年8月24日第三種郵便物承認
ら、しんどかったこと、うれしかったこと、こえられたこと、のこっていること・・・ひとりひとりの生活のことばで語る。



一昨年発覚した省庁・自治体の障害者雇用の水増し問題は、雇用促進行政の根っこに関わる重大な事件であるのに、人事課も教育局総務課もその根っこにふれる回答はなかった。どちらも「障害者活躍推進計画」作成に障害者職員の参画をさせたまではよかったが、「困りごと」を聞いて、できる範囲の対策を講じたにとどまった。

知的障害者や精神障害者を排除してきたこれまでの姿勢を改めるということは、一緒に動き、一緒に悩むということだ。「能力・適性」の意味を問い直すことだ。そして、さまざまな施策を、あらためてこうした障害者とともに洗い直して行くきっかけなのだ。今回交渉の前に各課回りをを行い、少しつつこんだ話ができただ。あらためて、また各課を回り担当者と話したい。

2020年度会費、寄付、協力会費を納入いただきました(五十音順、敬称略)

【2020年度会費】

会沢完、青木繁明、阿久津康仁、朝日雅也、石田貴美子、伊藤峰子、上野豪志、内野かず子、大武昭、大塚眞盛、沖山稚子、尾谷英一、黄川田仁志、癸生川新一、越野操、佐藤恵美子、佐藤秀一、澤則雄、清水泉、清水泰代、鈴木照和、関一幸、莊子敏一、竹迫和子、田島玄太郎、巽孝子、巽優子、田中利昌、谷崎恵子、津崎悦子、辻浩司、辻彩子、友野由紀恵、並木理、贄田俊之、西陰勲、乃木聡、長谷川顕、幡本洋子、原和久、原田真弓、樋上秀、日吉孝子、正木敬徳、前田直哉、松田和子、松田典子、松山美幸、水谷淳子、森田譲二、谷塚祥子、山川百合子、山崎かおる、山崎茂、山崎泰子、山崎有子、山下浩志、山田裕子、山本正乃、湯谷百合子、吉田久美子、くらしセンターベしみ

【2020年度寄付】

上野豪志、大塚眞盛、大家けい子、関一幸、鈴木照和、莊子敏一、津崎悦子、直井利雪、新相勝己、贄田俊之、西陰勲、増田真吾、松田和子、水谷淳子、富沢一枝、山下浩志

【運営協力費】

朝日雅也、田島玄太郎、贄田俊之

職場・地域ひろがりつうしん

●わらじ大バザーたくさんの出会い



わらじの会が40年余にわたって開催してきたわらじ大バザーが11月1日(日)せんげん台第4公園で開かれた。例年の倍近くの広いスペースを使い、園内のあちこちに売場が点在。秋晴れの下、ピクニックを兼ねている人々が。写真は、車いすの野島さん(埼玉障害者市民ネットワーク代表)と高橋越谷市長(左)、雑貨売場も担当した辻県議(右)。

●追悼・西陰勲さん(元運営委員)



当法人の元運営委員で、越谷市のバリアフリーマップや学校の体育館を使っての避難所一泊体験などで緑の下の力持ちとして活動してきた西陰勲さんが、最後の日々を病院でなく自宅でご家族と共に過ごして逝かれた。退院の日は、病院の職員らにピースサインで挨拶されて行かれ、自宅へ戻ってからは孫たちと笑顔で過ごされたとのこと。その数か月前の世一緒では、「すいごごカフェ」に聞き手として参加していた時、自らトークゲストになりたいと希望。当日はやはり言葉は発せなかったが、街づくり

1994年8月24日第三種郵便物承認の活動の相棒だった樋上さんや日吉さんら障害者たちの言葉にうなずき返しながら、声なきトークを行ったことが忘れられない。

●水上公園花壇共同作業、冬越し準備



多くの県営公園の中で、しらこぼと水上公園だけが花壇整備を委託に出している。その唯一の事例を受託しているのは当会で、作業は越谷市内のさまざまな障害福祉サービス事業や精神科病院内デイケアなどにシェアして、共同作業として行ってきた。各施設は「施設外就労」という制度の下で参加しており、当会は制度とは関係なく、失対事業のような形で行っている。当会のメンバーは経験を重ねているので、先輩としてアドバイスをしたりしている。すでに14年。作業終了後は全員での反省会。各施設から1人が出て一緒に管理事務所への報告など、社会との緊張関係を保つための仕事体験を行っている。写真は、11月11日のパンジー・ビオラ移植作業。

●水辺の市6年目の秋、まつり空間に

写真は11月10日(火)の越谷水辺の市。先月か



らフラダンスのプリンセスマミーの方々が参加。当初から花を添えていただいているタンク☆ポップや島根さん等のライブに加え、販売だけではないまつり空間としても、水辺の市は定着つつあります。毎月第2火曜日。その他の火曜日もべしみ等の販売は有り。静かなブームの水辺の市にあなたもどうぞ！不思議な魅力がありますよ。

Café News Flash



[7月15日 辻こうじさん]

わら細工の専従として4年間関わった後、2007年越谷市議選に初当選。3期12年間務め、その後2019年埼玉県議選に初当選した。県議会議員は住民の要望を聞いたり調べたりして県政に反映させることが

仕事。県の問題は見えにくいけど、政治に関与するやり方はいっぱいあるので、ぜひ関心を持っていただければ嬉しい。



[7月29日 伊藤利子さん]

福井県の山奥、勝山市出身。1年の内半分は雪に埋まる所。幼少時に両親を亡くし祖母に育てられた。実家に出戻りながらも3回東京に出て、縫製の仕事をした。その経験が活きて、わらじの会で手作り班ができ、みんなでいろんなものを作っている。娘の峰子が障害があるとわかった時は主人と毎日どうしようかと言っていたけど、障害のある親子が集まるつみきの会に入って、一緒に出掛けるようになってから私の気分も変わった。今は峰子と2人暮らし。

[8月26日 会沢完さん]

昭和51年生まれ。茨城県水戸市で生まれた。2003年くらいに自立生活体験プログラムで一人暮らし体験をしたけど、寂しくなってや

めた。買い物と食べることと営業が大好き。現在、北島三郎を卒業しまして、丘みどりが好き。アピタのスーパーで実習したことがあるけど、楽しかったのでまたやりたい。週1、2で。

[9月2日 尾谷英一さん]昭和22年6月1日生まれで、今73歳。新潟県小千谷市出身。高校時代はスキーでインターハイに出たことがある。25年程前から、カヌーと空手も始めた。ニューオタニ(株)は29歳の時に



創業して、44年続いている。会社をバリアフリーにして障害者達を最初に雇ってからは30年近く経つ。そこが基盤になり、今では障害を持つ人達と仕事・学習・スポーツを一緒に楽しんでいる。「フレンドリー春日部」というチームでソフト

ボール、卓球バレーなど、最近は川の清掃を兼ねたカヌーもしているので、皆さん今度一緒にやりましょう。



[9月23日 星名良浩さん]

昭和35年、東京生まれ。埼玉大学で教員になるために学んでいたが、浦和少年鑑別所に就職した。非行少年に対してどうい

う処分が適当か、意見と理由を

書くのが仕事だったが、荷が重くなり30歳前に退職した。そんな時オエヴィスでの介助者募集のチラシを目にして、応募。藤崎稔さん、吉田昌弘さんらの介助に入ったが、最初はどのよう接したらいいかわからなかった。今はもう疲れたなと思いつつもベシみの施設長をやっている。



[10月7日 大坂富男さん]

今日は「強いられた不妊手術」という題で。強制不妊手術は20年くらい前までやっていたし、法律もあった。優生保護法も1948年から40年近くあった法律。廃止されたけど、母体保護法と名前を変えただけ。障害者が生まれるとお金がかかる。無駄金がかかるんだっからやめた方がいい、とどこの国でもそういう感じだった。私は成長しなくても、技持たなくても生きてるだけでいいと思う。

すいごごカフェ

毎週水曜に、障害の有無に関係なく、いろんなゲストをお招きし、その人の人生経験や考えを聞く会を開いています。最後には質疑応答を交え、みんなで意見交換が行われます。どなたでも、ぜひ聞きにいらしてください♪

ブログ <https://yellow-room.at.webry.info/>

すいごごカフェ 11/25~1/13 1時半のゲスト 

11月25日(水)

西埦 美子さん

GHテレサ職員

障がい者事業所だからできること!

福祉的作業所から社会的事業所へ。儲(もう)からない軽作業、売れない物販、お客が来ないお店、これって、そもそもおかしくない?!

25日はせんげん台「世一緒」で行います

12月2日(水)

大家 けい子さん

さいたまNPOセンター越谷支部

介護者サロンを続けて

2000年の介護保険発足から間もなくして、県内の多くの市町村で住民参加で介護のありかたを考え合う活動が。介護する家族は、利用者本人は、従事者は、自治体はいま?

12月9日(水)

藤ヶ谷 理江さん

TOKOメンバー

郁美と友達そして私

「問題」が起こるからこそ「自業自得な気分」も味わうし、「汚れた下着は洗うぞ」とも。変な子は分けていいと教える学校で、郁美が編み出す自分流の学びが子ども達をほぐす

12月16日(水)

関 啓子さん

ぺんぎん村

Lunch Café どっこいしょも

こどもの国のオトナ

特殊学級で、通常学級で、たくさんの「変わった子」、「できない子」、「ランボーな子」、「ふしぎな子」に囲まれて、もまれて生還したガリバー旅行記。

12月23日(水)

坂口 亜美さん

ロイヤルリムジン事件被害者家族

いきなりクビと言われたら

「今日で退職ね」と言われたらどうしたらいい?夫が遭遇した「従業員一斉解雇事件」の闘いから、事件の事から解雇の事までお話しします。

23日はせんげん台「世一緒」で行います

1月13日(水)

島根 淑江さん

元教員・東越谷在住

生徒達暮らすこの街で

他県出身だが長年越谷市内でずっと教員として働き、生徒達と喜怒哀楽を重ね合わせ、老後の人生もこの街で歩む。世一緒にも立ち寄り、新たなつきあひも。

すいごごカフェ(第1、2、4、5水曜)もLunch Café どっこいしょ(第3水曜)も、NPO法人障害者の職場参加をすすめる会が主催する誰でも参加できます。Lunch Caféは12:00からキッチンとまとのカレー(コーヒー付き300円)が食べられます。数限定のため要予約048-964-1819(7回コール)

職場参加をすすめる会

2020.11~2021.1 カレンダー

(2020年11月09日改訂)

2020年12月		2021年1月	
日中行事	ほか	日中行事	ほか
1日 日	わらじ大バザー(せんげん台第4公園)	1日 金	
2日 月	水上公園作業(除) 互島料除草	2日 土	
3日 火	当番会議	3日 日	
4日 水	すいごご(吉原さん)	4日 月	年末年始 一休
5日 木	たそがれ	5日 火	
6日 金	らこぼろ	6日 水	
7日 土		7日 木	
8日 日	わらじ大バザー予備日	8日 金	
9日 月	互島料除草	9日 土	
10日 火	緑谷水辺の市 (バビラー、ピオラ入替)	10日 日	
11日 水	水上公園作業 すいごご(井原木さん)	11日 月	
12日 木	たそがれ 世一健さん	12日 火	緑谷水辺の市
13日 金	水上公園作業 らこぼろ ミニTOKO	13日 水	当番会議
14日 土		14日 木	たそがれ 世一健さん
15日 日		15日 金	らこぼろ ミニTOKO
16日 月	水上公園作業 互島料除草	16日 土	
17日 火	職場参加を語る会 Lunch Cafe どういよ(石井君)	17日 日	
18日 水	職場参加を語る会 Lunch Cafe どういよ(石井君)	18日 月	水上公園作業
19日 木	たそがれ	19日 火	
20日 金	水上公園作業 らこぼろ	20日 水	職場参加を語る会 Lunch Cafe どういよ(石井君)
21日 土		21日 木	たそがれ
22日 日		22日 金	らこぼろ
23日 月		23日 土	
24日 火		24日 日	
25日 水	ピアサポート研究(西塚さん)	25日 月	
26日 木	ピアサポート研究(西塚さん)	26日 火	
27日 金	ピアサポート研究(西塚さん)	27日 水	ピアサポート研究(せんげん台(すいごごさん))
28日 土		28日 木	たそがれ
29日 日	いっしょにいこうと共に出るの集會	29日 金	らこぼろ
30日 月	互島料除草	30日 土	
31日 火		31日 日	

の中は、リハビリを兼ねた1~3時間内の屋外のアルバイトです。グループでやるので、初めての方でも大丈夫です。

は、業務の補助の絵付けと、その普及・販売のための研修や営業活動です。

は、障害のある人や他の人々が日替わりゲストとなって、暮らしや仕事を語り継ぎます。あなたもどうぞ！

○茶色の字のスケジュールは、主に連携団体の主催行事で、一緒に参加できるもの紹介します。

○ほかのスケジュールは、主に小グループでの講座やミーティングです。詳しい内容についてはお問い合わせください。

世一緒スタツフ日記

骨を拾いし秋の月

樋上 秀

またひとり骨を拾いし秋の月
樋上にとつては、二名つづけて、
武蔵坊弁慶にあたる人が亡くなっ
ています。たそがれ弁慶である正木
さんには、長生きしてもらいたいと
切に願っています。

電話番の仕事してます

大野 言弥

関根芳民さんにしつとしていま
す。べしみ通所者三〇年の樋上が、
三ヶ月くらの芳民さんに、べしみ
の説明をされました。複雑な思いで
すこし嫉妬しています。

大野言弥です。キッチンとまとで、
電話番やっています。キッチンとまと
は、宅配弁当屋です。電話番の仕事
は、注文受付です。週2回いつて
ます。受付時間は、AM9:00~
AM10:00です。

仕事帰りのカレーうどん

伊原 尚子

今日は毎日仕事でやっていてつ
かれました。よいしよにきて、カレ
ーうどんがおいしかったです。

あつという間に六〇才

栗原 節子

私は東越谷に住んで十四年になり
ます。今は家の仕事をやっています
が、昨年七月から足の上の方が痛く

せんげん台世一緒に来て一年

石丸 洋介

越谷世一緒の職員さんの内野さ
んと長谷川さんから紹介されたせ
んげん台世一緒に通所し、早くも
一年と一ヶ月たちました。家に居
ると親や知り合いの面倒しないと
いけないので、仕事が出来ません
が、キツカケが出来、本当に良かつ
たです。又今迄A型、B型作業所の

きんきょうほうこく

ともの ゆきえ

職員さんと違って、親身に考えてくれ
るので助かります。革芸やウッドデ
ッキの野菜販売、色々な作業でやりが
いのある作業所(仕事)で良かったで
す。これからも一生懸命頑張つて行き
ます。

パワーサラダ出来ました

山崎 有子

さいきんのきんきょうほうこくで
すが、げつようびのあさに一〇月の
一二日ようびにあいライフのひと
に、あさ、はいつてもらっています。
きんきょうびのあさ、けんりつ大学の
がくせいに、はいつてもらっています
が、さいきんのきんきょうほうこくは、ぶんし
ようでかいてあることです。

よのなかいいろいろあるけど

黒田 正巳

私は東越谷に住んで十四年になり
ます。今は家の仕事をやっています
が、昨年七月から足の上の方が痛く

一〇月一日からA型の近くで越谷
市ヘルシーマニアパワーサラダ店が
出来ましたので、良かったらたべて下
さい。おすすめです。おいしいです。
これからもよろしくおねがいます。

二〇二〇年十一月十八日発行(毎月十二回 一と四と六と八の日) 通巻四九八三号

一九九四年八月二十四日第三種郵便承認発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒333-0851 川口市芝新町十五一九アステール藤野1F